

試験を分析し、この級でよく出る漢字ベスト40をまとめました。実際に問題された問題もわかるので、解答とセットにしてまとめて確認しておきましょう。

表の見方

1 粗

頻出漢字

過去10年間の出題率

65.4%

チェックボックス
覚えた問題はチェックをつけよう。

出題形式
出題される試験分野です。アイコンの見方は表の左下にあります。

頻出問題
試験で実際に出題された問題です。右から頻出度順に並べています。

問題の答え

粗削り→あらげずり
優雅⇄粗野
精粗→(高低)型

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
概	衰	隔	穩	湿	乏	虚	揚	哀	免	緩	減	励	粗
50.0%	50.0%	50.0%	50.8%	50.8%	51.5%	52.3%	53.1%	55.4%	55.4%	56.1%	56.1%	56.9%	65.4%
識熟読 概略・概数・概概	熟部読 盛衰→(高低)型	識熟読 遠隔・間隔・隔離	四熟読 へイオン・無事・平穩	書熟読 シツド→湿度	部四読 乏しい→とぼしい	部熟読 虚勢→きよせい	四同読 抑ヨウ→揚	対熟読 哀れ→あわれ	類熟読 解雇⇄免職	四熟読 緩慢→(岩石)型	書熟読 減亡→(岩石)型	部読四 励ます→はげます	熟対読 粗削り→あらげずり
概略→がいりやく 概況→(洋画)型	盛衰→(高低)型	間隔→かんかく 隔世→(着席)型	不穩→(非常)型	湿潤→(岩石)型	器用ピンボウ→貧乏	虚勢→きよせい 虚実→(高低)型	旗揚げ→はたあげ	哀れ→あわれ 哀歎→(高低)型	任免→(高低)型	緩和→(岩石)型	点滅→てんめつ	励ます→はげます	粗削り→あらげずり 優雅⇄粗野 精粗→(高低)型

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
卓	敢	誘	魂	凝	催	鎮	遂	惜	裂	没	潤	辛	伏	焦	滯	削	邪
45.4%	45.4%	45.4%	45.4%	45.4%	46.9%	46.9%	46.9%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	49.2%	49.2%
四部読 卓抜→たくばつ	部同読 敢→あかん	同類読 誘惑→ゆうわく	同熟読 商魂→(岩石)型	書同読 凝らす→こらす	同熟読 催眠→(着席)型	同熟読 鎮痛→(着席)型	部同読 遂げる→とげる	熟同読 惜別→(着席)型	書四読 四分ゴレツ→五裂	四類読 没収→ぼつしゅう	熟同読 潤む→うるむ	部書読 辛→しん	熟同読 屈伏→くつぷく	書同読 焦げる→こげる	同対読 進退→しんたい	対熟読 追加⇄削減	書熟読 邪道→じゃどう
卓抜→たくばつ	果敢→かかん	案内→あんない	精魂→せいこん	凝らす→こらす	催眠→(着席)型	鎮痛→(着席)型	遂げる→とげる	惜敗→せきはい	分裂→ぶんれつ	没収→ぼつしゅう	潤む→うるむ	辛→しん	屈伏→くつぷく	焦げる→こげる	進退→しんたい	追加⇄削減	邪道→じゃどう

部首のまちがい

慮 vs 虐

慮の部首は、心(こころ)。憂慮、思慮、顧慮などに心に関連した意味で使われるので、こちらの部首はわかりやすい。

読みまちがい

卑 vs 辱

辱は相手をはずかsherる・傷つけるという字義があり、卑は見下すという字義がある。どちらも相手に負の作用を及ぼす意味に使われる例が多い。辱める「はずかしめる」・卑しめる「いやしめる」がある。それぞれ送り仮名にも注意。

書きまちがい

髓 vs 随

髓は、したがり・思いのまま、という字義があり、追隨などがよく出題される。髓は、物事の中心・大事なところという字義があり、神髓などがよく出題される。

書きまちがい

概 vs 慨

概はなげくという字義があり、心や感情の活動を表す「(りつしん)んべん」が使われている。概は、おおむね・だいたいという字義がある。感慨「かんがい」は身にしみて感じるしみじみとした気持ちの意味。概要「がいよう」は物事のおおすじの意味。その漢字の字義をイメージしながら区別する。

まちがい多発 対比して覚えれば忘れない!

40	39	38	37	36	35	34	33
慰	既	幻	遇	封	貫	悔	潜
43.1%	43.9%	43.9%	44.6%	44.6%	44.6%	44.6%	44.6%
識熟読 慰留→(洋画)型	同熟読 既定→きてい	書四読 幻想→げんそう	部熟読 境遇→きようぐう	識部読 封→ふう	部四読 貫通→かんつう	書同読 悔やむ→くやむ	熟書読 潜水→(着席)型
慰留→(洋画)型	既定→きてい	幻想→げんそう	境遇→きようぐう	封→ふう	貫通→かんつう	悔やむ→くやむ	潜水→(着席)型